取付要領書

高耐久性ラバー「ST ダクトバンド」

・STダクトバンド（ストレート）

・STダクトバンド（フランジ付き）

開発・製造元

株式会社柴田工業所

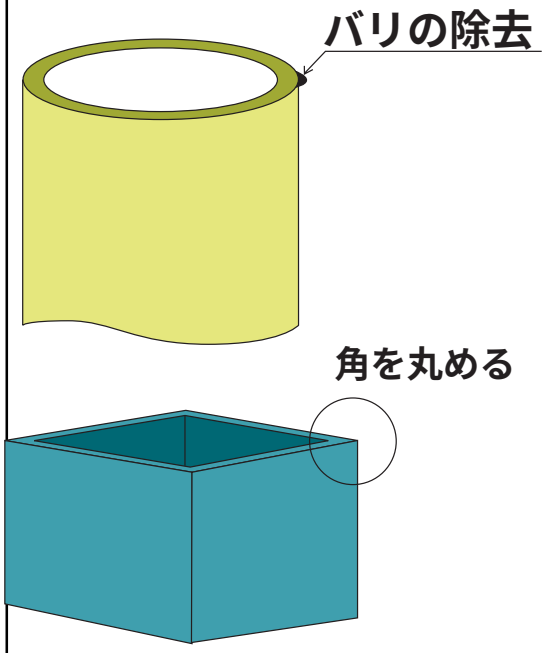
ST ダクトバンド

ＳＴダクトバンド取り付け時注意事項

この度はST ダクトバンドをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本取扱説明書はより長くST ダクトバンドをご使用いただくための注意事項をまとめたものです。取り付けの際には必ず本取扱説明書をお読み下さい。なお、**正常な取り付がされていない場合、予想寿命より早く切れ、または裂けてしまうことがあります。**

1.バリ、突起物の排除。

配管及びフランジ部のバリや突起物等は、事前に取り除くか、合成ゴムや布テープ等で覆い隠してください。
（特に角フランジの各コーナー部に注意）

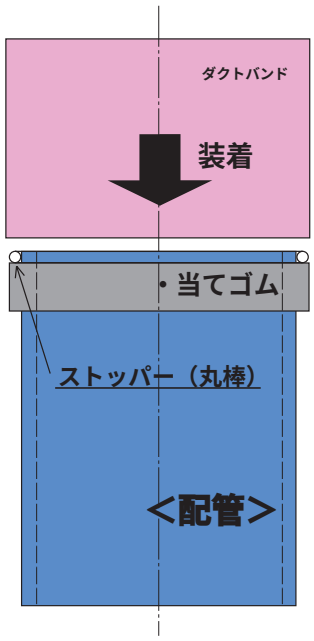


※ＳＴラバー自体は、引き裂きには非常に強い性質が有りますが、取り付け機器配管またはフランジ部）の表面及び先端等にバリや突起物が有りますと、運転時に擦れて破れの原因になります。

2.当てゴム。（取り付け面をフラットにする）

配管に丸棒等が取り付いている場合は、当てゴムをセットし、取り付け面の高さをフラットにした後にSTダクトバンドを装置してください。

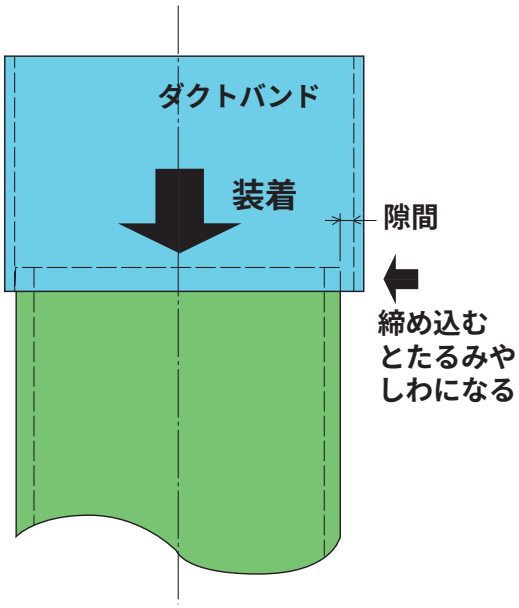
※ＳＴラバー自体は伸びるので丸棒が付いていてもそのままセットする事は可能ですが、運転時の振動等で丸棒の先端がこすれてＳＴダクトバンド自体が薄くなったり、傷が付いたりする事があります。
例：φ６の丸棒の場合７mmの当てゴムをお勧めします。



ST ダクトバンド

3.”たるみ”を無くす。

ST ダクトバンドを装着する場合、面間に”たるみ”や”しわ”が出来ない様に　張った感じで装着して下さい。また、ＳＴダクトバンド自体の径（ＩＤ）が大き　すぎるとエアー、液、粉末等の漏れにつながるだけでなく”しわ”の原因にもなりますのでご注意下さい。

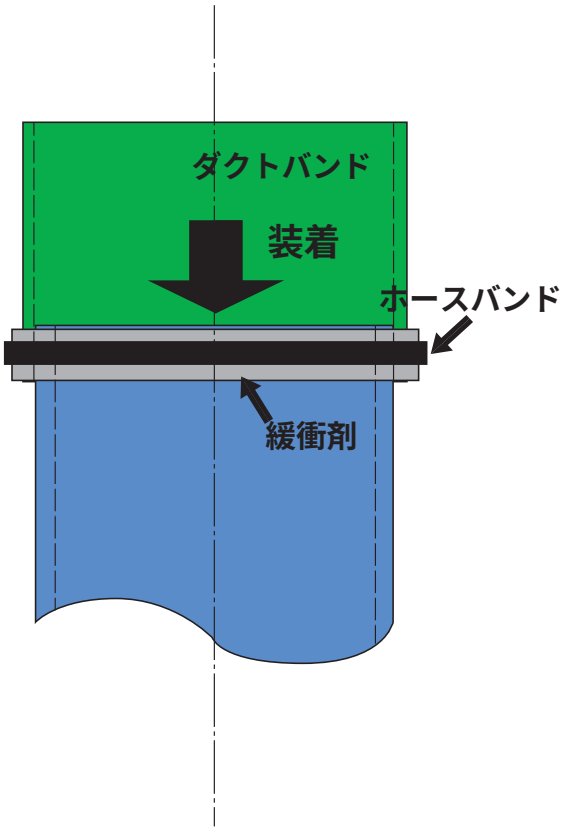


※”たるみ”や”しわ”があると、振動等でＳＴダクトバンド同士が擦れてストレスの原因になります。例：ＳＴダクトバンドの径（ＩＤ）は、配管径（ＯＤ）の 90%～95%ぐらい、長さ（Ｌ寸）は面間+取り付けしろ 60mm（上下 30 mm）位が目安です。

4.ホースバンド。

STダクトバンドを装着する際にホースバンドを使用する場合は、緩衝剤（合成ゴム）をはさみ込み、その上から絞めて下さい。

※キズ防止。（ホースバンド自体でＳＴダクトバンドにキズを付けてしまうことが有ります。）



ST ダクトバンド

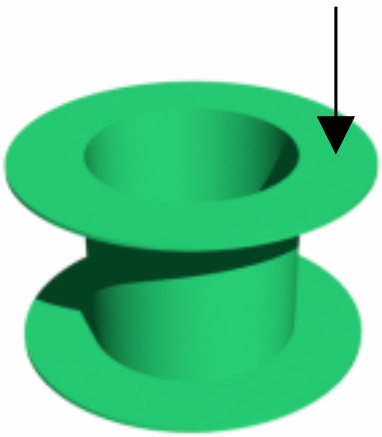
5.機器との当たり。

ST ダクトバンドを取り付けた後、ＳＴダクトバンドと装着自体（各金属部）に当たりが無いことを確認下さい。特に機器が停止時は当たりが無い場合でも、運転時　（振動、ゆれ等）に当たりが発生する場合が有ります。

※当たりの部分が擦れて薄くなったり破れたりする場合が有ります。

6.フランジ付き

フランジ付きSTダクトバンドは納品時にはボルト穴が明いておりません。現合にて穴開けを行って下さい。
これは、ST ラバーの性質上事前に穴開けをしても取付の際に芯ずれが起きるからです。



※フランジの穴と穴位置を決めるために合わせてから、カッターナイフまた、ホールパンチ等で穴開けを行って下さい。

7.その他

ST ダクトバンドを取り付ける機器自体が特殊な動作をする場合や、配管が大きく芯ずれをしている場合などは、事前に担当営業に相談ください。